



明けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、輝かしい新年を健やかにお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年行田市は、市制施行75周年を迎えました。市民の皆様が主体となって実施した各種記念事業をはじめ、節目となる年を市民の皆様と一緒に祝うことができ、大変嬉しく思っております。

また9月には、従前の総合振興計画に代わる新たな市政運営の総合指針として、「行田市基本構想」を策定いたしました。この中では、市が目指す「将来の行田市の姿」として、「義務教育学校で学ぶ子どもたちの姿」や「街に残る足袋蔵が改装されてカフェやお店として使われている姿」、「お年寄りや子ども、若者など多様な世代が新しい移動販売車を通じて交流する姿」など、さまざまなシーン別に、イラスト

を添えたストーリー仕立てで描いています。これをご覧いただくと、行田市が今、どのような街を目指してまちづくりを進めているのか、お分かりいただけると思います。まだご覧になっていない皆様は、ぜひご覧ください。

さて、現在の行田市の最大の課題は、人口減少、とりわけ子どもや若い世代の人口が減少していることです。これを克服するためには、子育て支援や教育の充実、雇用を生み出す企業誘致や開発の促進、そして交通アクセスの改善などの施策を連動させ、「新しい行田の好循環」を生み出すことが必要です。私は市長就任以来、国に先駆けた3歳未満児の保育料無償化やうち子育て支援事業、市立小中学校を3校の義務教育学校に再編する学校再編の取り組み、企業立地をしやすいための都市計画マスタープラン見直しなど、

さまざまな施策に積極的に取り組んできました。そしてこの1月からは、乗合型A Iオンデマンド交通「うきしろ号」の運行がスタートします。これまでのデマンドタクシーと異なり、お年寄りや障がいのある方だけでなく、市民であればどなたでもご利用いただけますので、皆様の新たな足として、多くの方にご利用いただけることを願っております。

本年も、基本構想で描いた新しい行田へと、皆さんと一緒に取り組んでまいります。市民の皆様には、引き続き市政に対するご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が市民の皆様にとりまして、幸多きすばらしい年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年のあいさついたします。

新春 対談

行田市栄誉賞 江利川 毅 さんに聞く

行田市長

こう だ くに こ
行田 邦子



行田市栄誉賞

え り かわ たけし
江利川 毅 氏

プロフィール



昭和22年生まれ。熊谷高校卒業まで行田市に在住。東京大学法学部を卒業後、厚生省に入省。公害問題への対策、年金・医療保険制の改正、介護保険制度の創設などに取り組む。

また、内閣府、厚生労働省の二府省で事務次官を務めた他、人事院総裁を歴任。退官後は埼玉県立大学理事長、埼玉医科大学特任教授などの要職を務め、現在は公益財団法人医療科学研究所相談役。

今年度新たに創設した行田市栄誉賞の初代として表彰された江利川毅さん。今回の新春対談では、江利川さんに行田市での思い出やこれまでの歩み、これからの行田市に期待することなどをお聞きしました。

江利川 毅さんの歩み

- 令和6(2024)年
 - 平成29(2017)年
 - 平成24(2012)年
 - 平成21(2009)年
 - 平成19(2007)年
 - 平成16(2004)年
 - 平成10(1998)年
 - 昭和60(1985)年～
 - 昭和45(1970)年
 - 昭和22(1947)年
- ・(公財)医療科学研究所相談役に就任
初代の行田市栄誉賞として表彰
 - ・瑞宝大綬章 受章
 - ・(公財)医療科学研究所理事長に就任
 - ・人事院総裁に就任
東日本大震災への対応や人事院勧告の完全実施(内閣・国会への対応)、幹部研修の充実などに取り組む
 - ・厚生労働事務次官に就任
年金記録問題、新型インフルエンザ感染症対策、社会保険庁の廃止や日本年金機構の設立などに取り組む
 - ・内閣府事務次官に就任
中央省庁再編や構造改革の推進に尽力
 - ・内閣官房首席内閣参事官に就任
 - ・内閣官房内閣参事官、厚生省大臣官房審議官(年金担当・老人保健福祉担当)、厚生省高齢者介護対策本部事務局長などを歴任
 - ・東京大学法学部卒業後、厚生省へ入省
 - ・行田市で生まれる
東小中学校、長野中学校を卒業